

新たな情報発信の名称と色（案）

令和 2 年 12 月 2 日

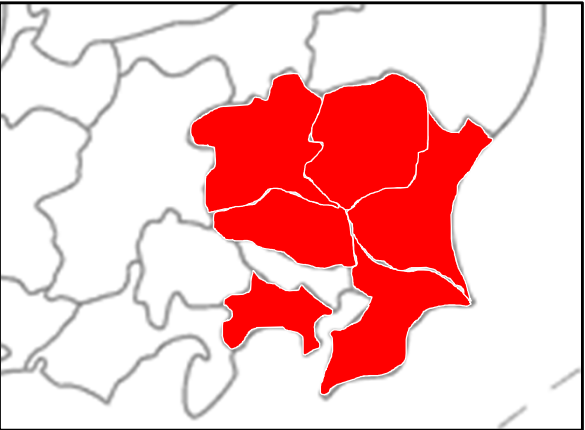
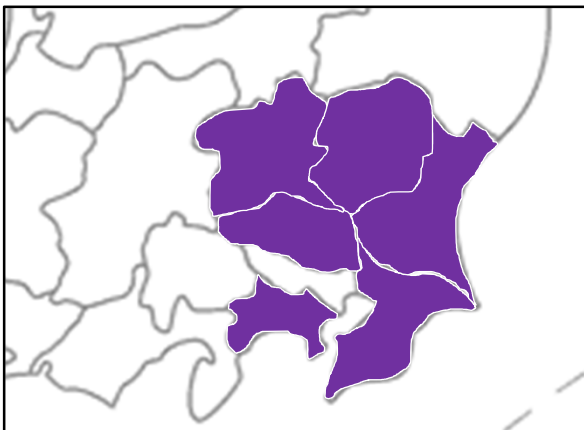
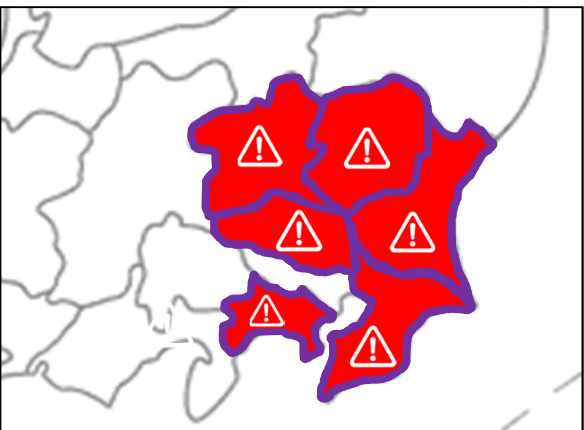
名称について

これまでの議論の結果等から、令和2年度の試行で使用した「**熱中症警戒アラート**」の名称を令和3年度以降も使用してはどうか。

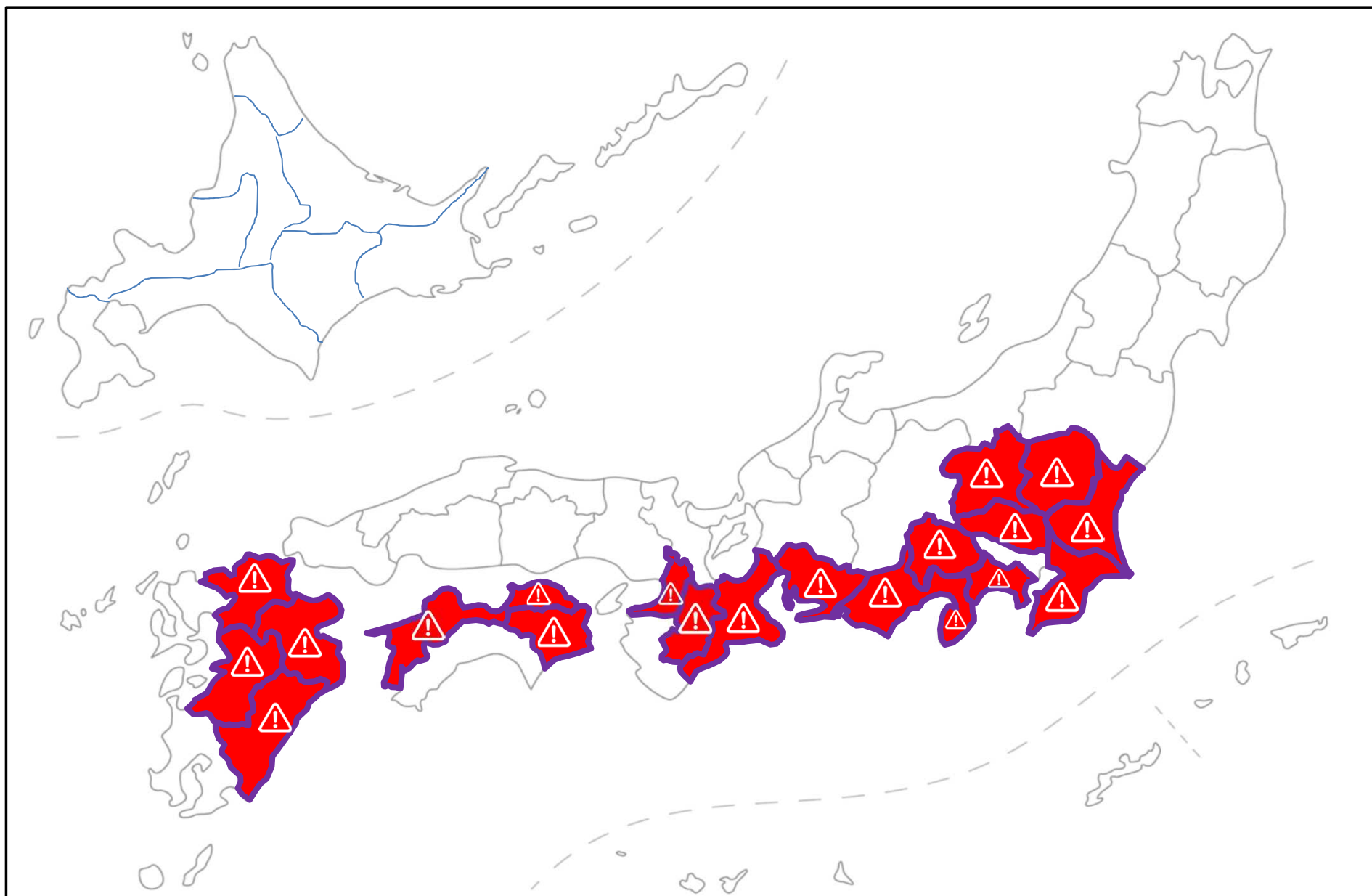
(第3回検討会での議論)

- ✓ 今夏に「熱中症警戒アラート」で試行を実施し、**様々な方に周知されたということ**を踏まえると、**名称を変更すると逆に来夏の普及に支障を来す可能性がある**。
- ✓ 限られた地域・期間での周知だったにも関わらず一定程度の方に認知されたことを踏まえると、**多くの方に比較的受け入れられやすい名称だった**とも考えられる。
- ✓ 今夏の試行で「熱中症警戒アラート」という名称で混乱（暑さ指数の指針では「警戒」の上に「危険」の段階がある）が無かったのは、暑さ指数の5段階が普及していない事が理由だった可能性がある。

色（イメージカラー）について①

	(案1)	(案2)	(案3)
内容	既存色（赤）を使用	新色を新たに設ける	既存色（赤）にアレンジを加える
メリット	WBGT31℃以上の重要性と一体になって発信出来る	熱中症警戒アラート単体で、 視覚的インパクトが強まる	WBGT31℃以上の重要性と一体になって発信出来る 一部、視覚的インパクトが出る
デメリット	熱中症警戒アラート単体では、視覚的インパクトが薄らぐ	WBGT31℃以上の重要性が弱まる可能性大	統一やイメージ定着に、時間を要す可能性がある
文字表記 (イメージ)	熱中症警戒アラート	熱中症警戒アラート	熱中症警戒アラート
地図表記 (イメージ)			

色（イメージカラー）について②



色（イメージカラー）について③

（第3回検討会での議論）

【案1「既存色（赤）を使用」について】

- ✓ 新たな情報であるということがわかりにくいのではないか。
- ✓ 国際的にも、「警戒」を示す色は、「赤」が統一的に使用されている色なので良いのではないか。

【案2「新色を新たに設ける」について】

- ✓ 新たな色としては、防災情報や紫外線情報のように「紫」や「黒」が考えられるのではないか。
- ✓ 防災情報で使用される、「黒」は、既に災害が発生している状態を表している色であるため、「**熱中症警戒アラート**」の趣旨には合わないのではないか。
- ✓ 暑さ指数の既存の5段階の上に、「**特に危険**」や「**かなり危険**」という新たな段階を設け、「紫」の色で示すことで、一般の方にも理解されやすいのではないか。
- ✓ 新たに「紫」「黒」等の色でアラートを示してしまうと、既存の暑さ指数「警戒」「危険」の段階での普及啓発の効果が大幅に薄れる可能性がある。

【案3「既存色（赤）にアレンジを加える」について】

- ✓ （WBGT 31℃の「危険」を表す色である赤と区別するために）「赤」を、（何かの色で）囲むと言う方法があるのではないか。
- ✓ 暑さ指数の「危険」の段階を示す色である「赤」を使用することで、「危険」の段階における普及啓発の効果を薄れさせることなく注意喚起ができるのではないか。

色（イメージカラー）について④

これまでの議論の結果を整理した以下の観点等から、

「案3」を採用してはどうか。

- 熱中症警戒アラートのイメージをわかりやすく国民に印象づけるため、一定程度 **インパクトがあることが必要。**
- 「黒」は、既に災害が発生している色であり、予防を呼びかけるアラートの趣旨とはそぐわない。一方、**「赤」は、国際的にも警戒を示す色として共通。**
- 「赤」以外の色が国民に定着していった場合、五段階表示を用いた注意喚起の際、**WBGT31℃時点の危機感が薄れてしまう可能性がある。**
- 表示に関し、複雑過ぎるルール（基準）を設けた場合、統一化に時間を要す懸念があるが、WBGT31℃とは、**簡単なマーク等による違いはあった方が良い。**